

## 「地域と学校の新しいカンケイ」～WIN WIN より Happy Happy～

【10月18日放送内容】

DJ：今回は、尼崎市が小学校で導入を進めるコミュニティ・スクールのモデル校である下坂部小学校の杉本校長先生と、社会教育課の増田さんにお話をお伺いします。お二方、どうぞよろしくお願いいたします。

杉本・増田：よろしくお願いします。

DJ：尼崎市は令和2年度より、小学校のモデル校で「コミュニティ・スクール」をスタートされたとお聞きしていますが、まずは増田さん。この「コミュニティ・スクール」について、詳しく教えて下さい。

増田：はい、コミュニティ・スクールとは、地域の皆様のご意見を学校の運営方針に反映させるため、学校運営協議会を設置している学校のことをいいます。学校運営協議会では、学校の教育方針などを地域の皆様にお知らせして、一緒にどんな子どもを育てていきたいかを話し合います。

DJ：そうなんですね。そこで、今回は下坂部小学校の杉本校長先生に下坂部小学校のコミュニティ・スクールについてお話をお伺いしていきたいと思いますが、その前に、下坂部小学校はなんと、令和元年度に博報賞並びに文部科学大臣賞を受賞されたとお聞きしました。杉本校長先生、改めておめでとうございます。

杉本：ありがとうございます。この賞は、校区に近松門左衛門とゆかりのある広済寺があることから、本校が平成元年度ごろから取り組んでいる、「近松郷土学習」の取組が評価されたものです。子どもたちは、浄瑠璃クラブや和文化クラブで浄瑠璃に親しんだり、総合的な学習の時間を中心に、近松や地域の歴史や日本の文化について学び、自分たちが学んだことを様々な方法でまとめたり発信したりしています。ご存じのとおり、尼崎市では「近松のまち・尼崎」のキャッチフレーズで、市としてだけではなく、市民レベルでも「近松」が地域の宝として大切にされてきていますが、まさしく、下坂部小学校では、そういった、地域で「近松」を大切に守り受け継いでおられる方々のお力を様々な形でお借りして「近松郷土学習」を行ってきました。その取組みが、そのまま下坂部小学校における地域学校協働活動やコミュニティ・スクールの導入につながっていると思います。それでは下坂部小学校のコミュニティ・スクールについてご説明いたします。下坂部小学校では、昨年度からコミュニティ・スクールを導入しましたが、尼崎市がコミュニティ・スクールモデル事業を始めた初年度に導入しようと考えたのは、次にあげる3つの理由からです。1つ目は、先ほどご説明したように、下坂部小学校のある地域では、地域をあげて「近松門左衛門」を大切にしてくられていて、「近松郷土学習」を通じて、子どもたちが地域とつながり、地域の方々は「近松郷土学習」に取り組む子どもたちの姿を大切に見守ってくださってきたという背景があることです。2つ目は、下坂部小学校は明治10年に当時小田村の小墾田(おばただ)小学校として開校し、なんと今年で創立144年を迎えます。児童の父親母親も、祖父母も、またその親世代も、下坂部小学校の卒業生という子どもも決して少なくありません。私は校長として下坂部小学校に着任して3年目になりますが、地域の方々に大切にされていると実感できる機会が何回もありました。本当にありがたいことだと思っています。3つ目は、6年後、2027年に下坂部小学校は創立150周年を迎えます。その大きな節目を、ぜひ地域の方々と一緒

に準備をして迎えたい、その思いからコミュニティ・スクールを導入することにしました。下坂部小学校のコミュニティ・スクールは、すでにある地域学校協働活動を核にして進めることにしました。また、下坂部小学校には、すでに地域学校協働活動や近松郷土学習で、様々な立場の方が力を貸してくださっています。その方々を、コミュニティ・スクールという形で再編させていただくという形をとりました。そして、コミュニティ・スクールを進めるにあたって、「学校と地域が手を携えて、よりよい社会の創り手となる子ども、自分のふるさと「下坂部」に誇りの持てる子どもを育てる」「尼崎の宝『近松』を次世代につなぐ」というテーマを決めて進めています。

DJ：そうだったんですね。地域学校協働活動を核にして進めている下坂部小学校のコミュニティ・スクールとはどういうものなんでしょうか。

杉本：はい。コミュニティ・スクールでは様々な課題を学校運営協議会で話し合うことになっています。昨年度は、学校運営協議会を4回開催しました。学校運営協議会の組織ですが、3つの部会で構成されています。1つ目は、学校運営協議会や全体交流会の開催に関する打ち合わせや準備をしたり、コミュニティ・スクールの運営に関わる連絡や調整をしたり、委託金の管理を担当する「事務局部会」です。2つ目は、さまざまな活動を通して学校の活動や児童の支援をする「学校支援部会」です。「学校支援部会」はさらに細かな部会に分かれています。3つ目は、学校の取り組みやコミュニティ・スクールの取り組みを評価し次の年に生かす「学校評価部会」です。それから、各部会以外に全体交流会があります。

増田：組織づくりがしっかりとされていて、各の部会の目的や役割がみんなで共有されています。また、アドバイザーとして地域課や学識経験者や教育委員会などが会議に出席し、下坂部小学校のコミュニティ・スクールを温かく見守っています。

DJ：さきほど杉本校長先生が「学校支援部会」が細かく分かれているとおっしゃっていましたが、どのような部会があるんですか？

杉本：学校支援部会は、次のような小さな部会に分かれています。1つ目は、学校開放事業やスポーツクラブ21の運営に関する仕事を担当する「学校開放部」です。こちらの部会の皆さんが中心になって、昨年度は校舎のペンキ塗りをしてくださいました。下坂部小学校の北校舎は、昭和12年に建てられた歴史と趣のある素敵な校舎なのですが、どうしても歴史の波には勝てず、傷んでできてしまっています。その校舎を、休日を使って廊下の手すりや棧などをきれいにさせていただきました。今年は、コロナの流行でまだ実現していないのですが、学校の周りの草取りと、また改めてペンキ塗りをしていただくことになっています。2つ目は、読み聞かせなど図書ボランティアを担当する「図書ボランティア部」です。毎年、読書週間に披露していただいている手作りの大型紙芝居は本当に見事で、子どもたちはすっかりお話の世界に引き込まれています。3つ目は、近松郷土学習に関する支援をくださっている「近松学習支援部」です。近松記念館の方や近松音頭保存会の方、浄瑠璃クラブ・和文楽クラブの子どもたちに三味線や踊りを教えてくださっている方もおられます。4つ目は、児童の学習にかかわる支援を担当する「学習支援部」です。5つ目は、校地内の施設等の環境整備に関する仕事を担当する「環境整備ボランティア部」です。6つ目は、登下校の児童の安全を守る「子どもの安全見守り部」です。雨の日も、風の日も、本当に一日も欠かさず、子どもたちの登校の様子を見守っていただいています。今後は、校内や校地内の花壇の緑化に関する仕事を担当する「緑化・園芸ボランティア部」にもお力を貸していただけたらと考えています。

DJ：はい。今後もどんどん増えていくと良いですね。さて、杉本校長先生は、下坂部小学校のコミュニティ・スクールをこれからどのように進めて、どのように発展させていこうとお考えですか。

杉本：そうですね。下坂部小学校のコミュニティ・スクールは、設置して2年目となりました。まず、私は下坂部小学校の地域の方は、学校と学校の子どもたちを心から大切にしてくださっていると感じています。学校や子どもたちのためならば、協力や支援を惜しまない素晴らしい地域だと思っています。私は、地域の方の熱い思いに応えるため、地域の思いと学校の思いを共有し、「地域とともにある学校」をさらにめざしていきたいと考えています。また、学校が一方的に地域の方々から支援していただくだけではなく、地域の方々が学校や子どもたちにかかわることで、楽しみややりがいを感じていただけたらと思っています。そして、下坂部小学校に通う子どもさんがおられる、おられないにかかわらず、地域の宝としていっしょに子どもたちを見守り、育て、その姿に未来への希望を感じていただけたらと思います。子どもは「学校」だけのものではなく、「地域」のものであり、これからの地域社会を作っていく担い手でもあります。学校教育を預かる私たちと、地域の方々とで共通の願いをもって、これからのコミュニティ・スクールの取組を進めていけたらと考えています。

増田：その考え方は、社会教育課が考えている思いと全く同じです。学校を拠点とした「地域学校協働活動」を進めることによって、「地域と学校の新しいカンケイ WIN WIN より地域と学校が Happy Happy」の思いで進んでいるんだなと思いました。

DJ：本当にそうですね。下坂部小学校のコミュニティ・スクールが今後ますます、地域と連携を深めて、「地域とともにある学校」として発展されることを願っています。今回は、下坂部小学校の杉本校長先生と、社会教育課の増田さんにお話をお伺いしました。お二方、どうもありがとうございました。

杉本・増田：ありがとうございました。

DJ：さて、来月11月は、「学校環境と安全を守る立花南小学校の地域学校協働活動」というテーマで立花南小学校の地域学校協働活動推進員の秀島さんと増田さんとの3人でお送りいたします。それでは、次回の放送もどうぞお楽しみに。